



CONCEPT

-教会-

地域に開かれた地域の為の施設、人々の出会いと交流の舞台を創り出す教会を目指す。教会の目的だと考えられる「礼拝」「教を習う」「祈り」をどう建築に取り入れるかが最大のテーマだと考える。

又、沖縄の風土の中に溶け込み、沖縄の人々の為の教会であり、沖縄のカルチャー（文化）をどう生かすか。人も景色も素材も大切にいくらか立派な教会建築を創っても自然、景色を壊してしまえば意味がないと思う。

同教会において光の移ろいや自然を感じ五感に訴えられる空間を演出し、日常忘れかけていた「自然」「風景」「時」を取り戻し、人々が静かに祈りのひとときの「場」を持つ事が出来たらと考える。

-敷地・平面計画上のポイント-

変化に富んだ（6Mの高低差）二つの道路レベルの地形を持つ場所にある。

300人収容の礼拝堂を二階（東道路側から）に置き、そこに至る階段を神聖な場所へアプローチするための空間として位置づけている。

東側の低い道路レベルからはアプローチ階段を上がり、西側の高い道路レベルからはアプローチ階段を下りメインホールへと辿りつく。

-建設-

基本的にはコンクリートの構造体とする。

現代の技術の推移であり、世界中どこにでも手に入る普遍的な材料であるコンクリート・ガラス、自然素材である木材を使用。

又、沖縄の伝統的な構法や素材である琉球石灰岩・琉球ガラス・サンニン（月桃紙）等を多用した仕上げの構成で考えている。

結果として沖縄の風景の中から生まれ出たように見える表現が出来たらと思う。

-礼拝堂-

礼拝堂は東西を軸に持つ事を考えた。

司祭は、朝日の方向に向かって朝の祈りを捧げ、夕方には夕日を背に受けながら夕の祈りを捧げる。おそらくこれがもっとも自然に従ったやりかただと考えたからである。

-屋外広場・ステージ-

他目的なスペースとして、地域の人々との交流の場になる。また、幼稚園や教会等のイベント時にも利用でき、屋外チャペルの場としての利用を考える。





MATERIAL

琉球石灰岩

石灰岩からなる島である沖縄は、古来より優れた石造技術を持っている。石垣や石畳が代表的だが、これに限らず城・墓・門・ヒンプン等と建造物においても様々な場所で見ることが出来る。この沖縄の文化でもあり沖縄の島そのものでもある琉球石灰岩を使用することで沖縄の自然や文化を再認識できるのではないだろうか。

琉球ガラス

琉球ガラスの製造が始まったのは約100年前と、歴史は古くはないのだが、戦後アメリカ軍から持ち込まれた飲み物の瓶等を利用し急速な発展をとげ、材料も技法も豊富になった現在では、高い評価を受けるようになった。園琉球ガラスを沖縄の光の文化として建築にも取り入れていこうと考えている。

サンニン（月桃紙）

月桃紙は沖縄の植物、月桃（サンニン）の植物繊維により作られた紙で、デザイン性や調湿性が高く、また環境にも優しい素材として知られている。そこでこの月桃紙を生活に身近な部材である障子や襖に使用し、人に優しい空間作りを目指す。

EMコンクリート

鉄筋コンクリートによる構造物はコンクリートの中の水酸化カルシウムと空気中の二酸化炭素及び酸素が化学反応を起こす事でアルカリ性を失い中性化し、それによってコンクリート中の鉄筋の腐食を引き起こし、鉄筋コンクリート造の寿命を縮めている。しかし、これにEMを混入することで抗酸化作用を高め、建物の寿命をのばす事が可能だと考えられる。

塗料材料

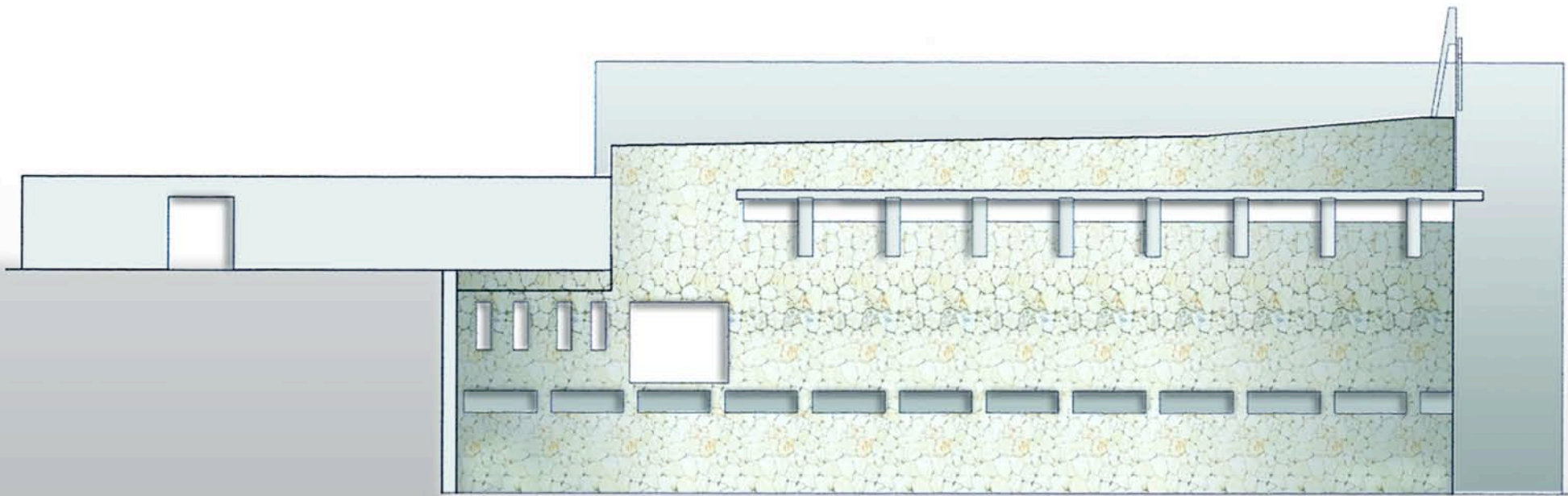
シンナー・キシレン等の悪臭のひどい材料ではなく、環境問題では最先端をいくドイツ（オスモ社）の塗料にEM粉末を混入し、それを使用することで新築独特の悪臭を抑えることができるとされている。またこの塗装は、木に直接浸透することによって着色するので塗料面の割れ・はがれ等がなく、木の呼吸を妨げない事から、木の調湿性を損なわない塗料である。

珪藻土

壁の仕上材として使用する材料ですが、むかしから七輪や火鉢の材料として使われており、耐熱・耐火性に非常に優れた素材である。更には、この珪藻土には小さな無数の孔があり生活臭を吸収する効果もあり、冷暖房の効率を向上すると言われている。

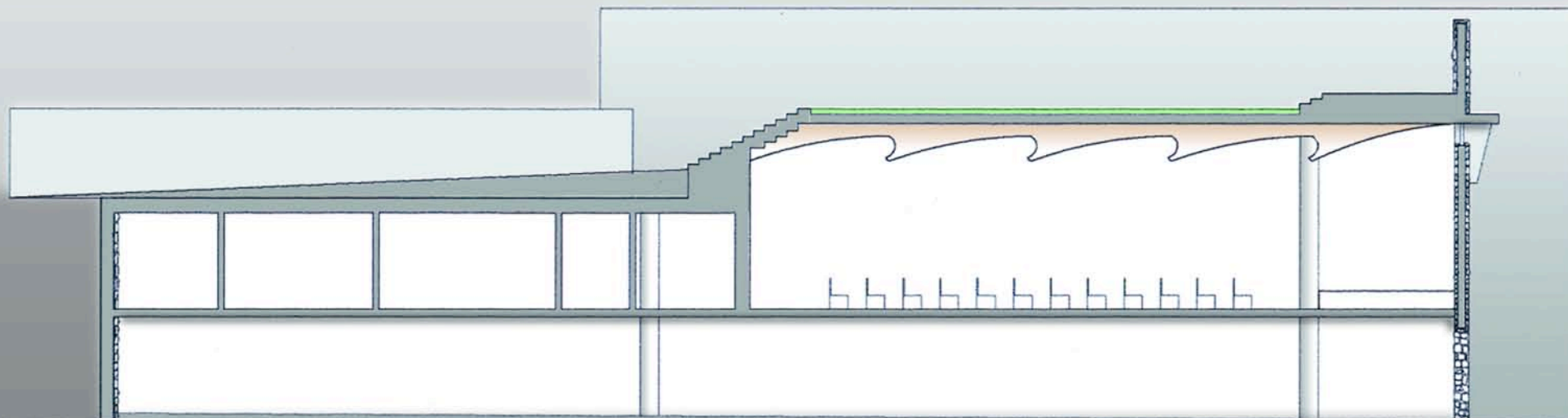


▼GL

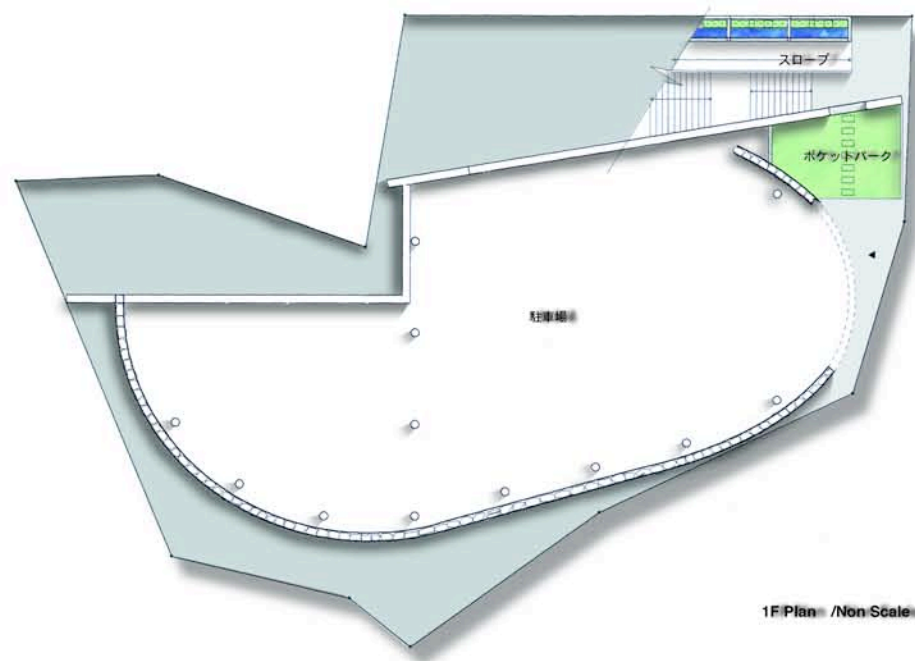


North side Elevation /Non Scale

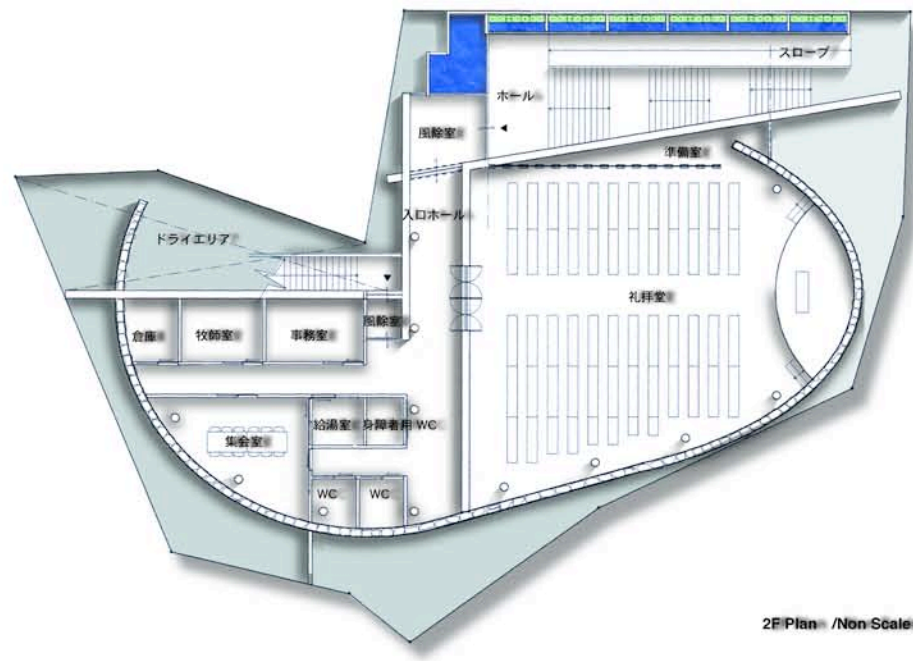
▼GL



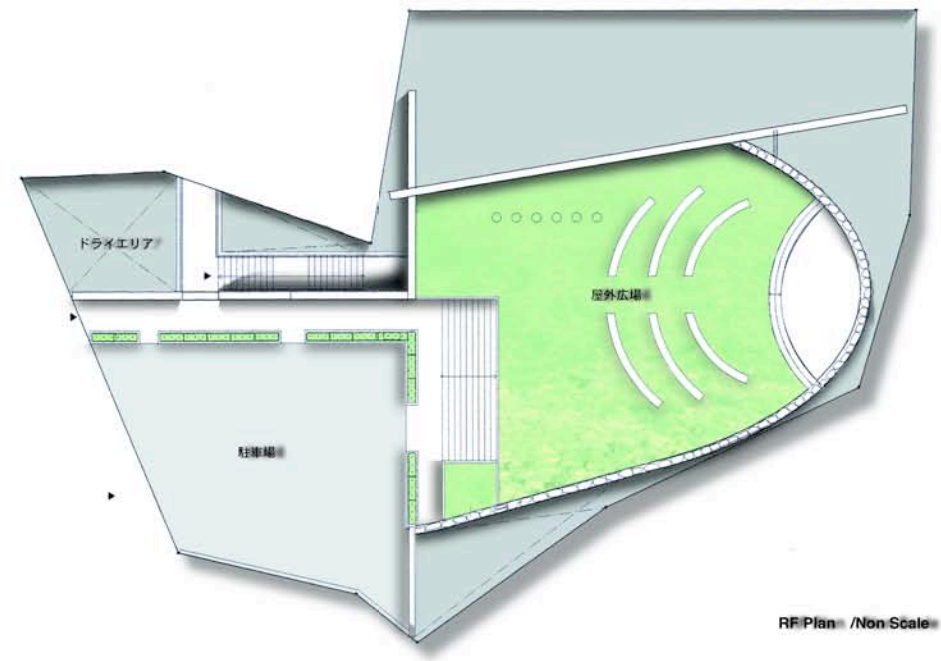
Section 1 /Non Scale



1F Plan / Non Scale



2F Plan / Non Scale



RF Plan / Non Scale